平成２７（２０１５）年度

第一回　吹田市立博物館協議会

議　　事　　録（要旨）

日　時　　平成２７（２０１５）年　　５月２９日（金）　午後１時３０分～午後４時００分

場　所　　吹田市立博物館　　二階　講座室

出　席　　一瀬・村田・田中（敏雄）・広瀬・辻本・外川・岸本・岩﨑・佐久間・大元委員
（欠席　伊藤・大森・田中（英世）委員）

【１　開　会】　藤井副館長（出席状況の確認）
（副館長）出席委員数は全委員１３名の過半数を超えています。

【２　挨　拶】　中牧館長　挨拶

【３　新委員の紹介】　藤井副館長
社会教育関係者　　内田委員にかわりまして、大元委員が着任されました。
学校教育関係者　　田中（万尋）・黒谷委員にかわりまして、田中（英世）・大森委員が着任されました。

＊職員異動【職員配置図（Ｐ２）参照】
庶務担当田中が文化財保護担当に異動　庶務担当に尾花が着任（４月１日着任）
旧西尾家住宅館長藤原に代わり赤松、旧中西家住宅館長梅田に代わり松本が着任（４月１日着任）

【４　議長・副議長の選出】　　議長は一瀬委員　　副議長は村田委員に

【５　案件（１）事業報告（平成２６年度後半～）】
（議　長）その前に傍聴者は。
（副館長）傍聴希望者はございません。
（議　長）（１）の事業報告（平成２６年度後半～）について事務局から説明を受けたいと思います。
（副館長）入館者数等の動向について説明します。Ｐ３の年度別観覧者数等集計表は右端から入館者総数、講座等受講者数、観覧者数合計となっています。吹田市立博物館では、展示を観覧された方を観覧者数と称しています。講座等受講者数は講演会、講座等行事にご参加の方、展示の観覧以外で博物館をご利用の方の数です。観覧者数と講座等受講者数を加えた合計を入館者総数としています。下から３段目は、平成２６年度の集計です。観覧者数１１，６９１名、講座等受講者数１９，３０２名、入館者総数３０，９９３名でした。入館者総数の推移は、平成１８年に市民参画の展示を取入れた結果、３万人

台を記録し始めました。２２、２３年は３万人台を割りましたが、２４年度から再度３万人を越え、２６年度は３万人を越えました。前年度比では約３，５００名減です。講座等受講者数はほぼ変化がないので、観覧者数の減少が入館者総数に反映しています。Ｐ４をご覧ください。平成２６年度月別観覧者数等集計表です。右端が２５年度入館者等との比較になっています。右から２つ目が２６年度各月の入館者総数です。下の方は展示ごとの集計となっています。春季特別展、企画展、夏季展示、博物館実習展、秋季特別展、特別企画となっています。春・秋の展覧会の入館者が少し厳しく約３，５００名の減となっています。特別企画や企画展等は前年度を上回っています。テーマによる観覧者数の増減は避けて通れません。安定した観覧者数を維持するのが課題です。Ｐ５は平成２７年度の４月分です。現在、２６年度に比べ増えていますが、春季特別展は、ほとんど４月の入館者には反映されていません。５月２８日現在、観覧者だけで２，５００名を越す状況です。

（議　長）観覧者数等の説明で質問はございませんでしょうか。Ｐ４の２５年度の入館者等々が突出してますが、２６年度の１１月と比べてどんな感じでしょう。

（副館長）１１月は、２５年度が８，８０５名、２６年度が８，４４３名。約４００名減です。講座等受講者数が７，６４１名で、入館者数の大半を占めていますが、展覧会とは関係がない利用者が加わっていますので、実質８，４４３名を下回る数字でございます。２５年度秋は交通展で、全世代に関心があるテーマでしたが、瓦は関心がかなり狭い範囲となります。メジャーなテーマは来館いただけますが、地域博物館として真正面から取り扱っていくローカルなテーマは、集客面では厳しくならざるを得ないという実態があり、今後どうして行くかが課題です。

（委　員）特別展は全てのテーマが同様に数字が取れるとは限りません。博物館実習展は人数を呼ぶための企画ではないでしょう。実習生の展示室でのトレーニングという大きな課題があります。その達成度を市民の方に見てもらう教育的効果があります。瓦は、千里丘陵のオリジナルをどう発信するか大切な使命があります。特別展に其々のミッションがあり、使命があり、到達目標人数があり、それが全て何千人である必要はありません。その代わりに一定の評価を得るため図録の作成、資料の増加があります。様々な目標があって良いと思います。内部的に目標を明確にし、保持し、全体を通して自己評価として、自分たちなりに十分に達したのではないか等内部的に評価できるものがあれば良いと思います。

（議　長）目的・ねらいとどうゴールしたかを意識しながら、次の報告をいただきたいと思います。

（事務局）Ｐ６～Ｐ１６に基づき博物館の事業（平成２６年（２０１４年）１０月２４日～平成２７年（２０１５年）５月２８日）報告。

（議　長）いろんなジャンルに活動されていますが、何かご質問等はございませんでしょうか。私の方から質問します。

（議　長）Ｐ６「瓦」の展示ですが、下段に「今回の特別展の成果を踏まえた常設展示室のリニューアル計画及び実施」が今後の課題とありますが、具体的にはどのようなことを考えていますか。

（事務局）現在、第一展示室が古代の窯業、土器生産と瓦生産の展示になっています。開館以来、若干のリニューアルがあり多少替わっています。中世と近世の瓦の部分が若干増えた状態です。秋季特別展では、紫金山公園の窯跡を意識してクイズラリーやマップ作りをしました。常設展示室では現地のことも分かり、現地では展示室の情報があり、遺跡や窯跡と展示を繋げる方向で考えています。瓦・須恵器を中心にした土器等を触ったり、重さを実感したり、瓦葺き・瓦制作等、体験的なことも取入れた展示に替えていきたいと思っています。

（議　長）常設展示と外の遺跡との関連性は重要なものですので、大至急作っていただきたい。

（委　員）Ｐ１０の「西村公朝展 ― ほとけの姿を求めて ―」は、４月２５日から開催されていますが、説明では後援を読売新聞大阪本社、朝日新聞大阪本社、ＮＨＫ大阪放送局三社からいただいていますが、共催にはできなかったのかと思います。三社から広報で大きく取り上げられると思います。後援になった経緯及び過去の実績について説明をお願いいたします。

（副館長）後援か共催かですが、共催ですと相手方も当然半分主催ということになりますので、経済的な負担も必要になってきます。三社の自主事業となれば、当館のような小規模な展示室での展観は難しいと思います。後援については、過去２回の西村公朝関係の展覧会は京都新聞社やＮＨＫに後援いただきました。今後も共催は全く無いとは申し上げられませんが、後援などをいただくことが、現状では一番広報を有効化する在り方と思っています。

（委　員）今後ともメインのものは極力その方向で押し進めていただいて、共催を一社に絞るとか少しでも助成金をいただいて、事業収入等に結び付ければと思っています。

（議　長）今回のアサヒグループ芸術文化財団助成金など色々ありますので、利用していただけたらと思います。

（委　員）観覧者数と講座等受講者数との関係がいつも気になっています。当館は、関連イベント、講座等が充実していると思います。博物館の新たな可能性を切り開くということで関連イベントが充実していることは良いことです。しかし、観覧者数よりも講座等受講者数が多いというのは気になります。講座に来た人を十分展示に誘導できていないとも解釈できます。関連イベント、講座を含む時は、展示とセットで、展示に誘導することでお願いします。その関連で「むかしのくらしと学校」展で、出前授業が８校、来館が２７校で吹田市内の全ての小学校に体験していただいているという説明でしたが、来館しなかった理由は、時間と距離の関係だと思いますが、小学生には「むかしのくらしと学校」展に来ていただきたい。子どもたちが博物館に来ればこんな施設があるということで、将来的に吹田に根ざす博物館になる上で重要だと思います。吹田市内の小学校には出前授業ではなく、来館を要望していただけますか。

（副館長）出前授業になる理由は、遠方で交通の便が悪いということが多いです。児童負担でバス・電車を利用して、来館する学校も少しずつ増えています。交通費は保護者負担になるので、当館にお越しいただけない学校があります。２６年度は、全校に関わりましたので出前も行く、当館にも来ていただくよう少しずつ利用する学校を増やしていくために先生方と協議をしたいと思います。

（委　員）教育委員会に多少でも補助してもらうことは考えられませんか？

（副館長）当館が予算化できれば良いのですが、予算の優先順位から考えると難しいです。他部署での予算化となると財政上無理をお願いできない現状です。

（議　長）昔、宮城県立美術館が消防署見学のように、美術館に行こうという掛け声を作ったのを思い出しました。アメリカ等は、スクールバスがあるので負担になってこないです。校外学習の予算金額が決まっていて、博物館に行くのに予算を使うのは惜しいというところもあると思いますが、何とかして、ミュージアムバスみたいな、他のものを含めて何とか安くならないか。吹田市の公用車を利用することはできないのか等思います。無料で他の部署を利用するとか考えていただければと思います。

（委　員）吹田のすいすいバスは、まだ走っていますか。

（副館長）すいすいバスは、地域によりますが走っています。

（委　員）阪急バスの停留所を使うとかそんな方法もできないでしょうか。

（副館長）学校側の最寄りバス停の場所の問題もあります。路線バスの一本の便で行ける学校は良いの

ですが、何本か乗り換えなければ来れない学校は難しいと思います。
（委　員）Ｐ７のコンサートですが、紫金山グリーン合奏団となっていますが、プロ或いは博物館側が経費を払って来ていただくものなのかお伺いします。
（副館長）実費程度の費用を博物館が負担して、コンサートをお願いしています。プロではなく地元に根づいた地域の合奏団ですので、利益を得ようというものではありません。
（委　員）Ｐ１４（４）のレファレンスですが、内容的にどういうレファレンスがありますか。
（副館長）電話、メール、来館された時で、吹田の歴史に関する内容が多いです。来館されている場合は、展示品に関することが比較的多いです。市外の歴史に関係するものも時々あり、対応します。
（委　員）Ｐ１５の９（１）ボランティアですが、登録制で、個人個人好きなところへ参加するという形をとっているのでしょうか。
（副館長）グループが幾つかあり、グループへの登録はしていただいております。場合によっては、簡単な研修をしてから入るものもあります。喫茶ミリカの場合は、公募するボランティアではありません。出来上がったグループと一から博物館が事務局になって募集しているものと、大きく分けて二つあります。
（議　長）Ｐ８、９の親子体験講座で下半期はイベントを増やされていますが、ご発言をお願いします。
（委　員）親子体験講座はこんな企画があるから行ってみようといういい企画だと思います。先ほど話がありましたが、講座には来ているが展示室に入っていない方が多いので、展示も観て下さいという声かけを是非行ってください。
（委　員）博物館を認知していただく目標としては、親子でというのは、一番効果があると思います。講座の方に参加される方は、講座に興味があるので来られていると思いますが、展示室にスタンプラリーと何か組合せを企画し、講座プラスα展示室を回ったら何か特典があるみたいな形で、展示室の方に足を運んでいただく企画も一つの案だと思います。
（議　長）新イベントで特にうけたイベントはあるのでしょうか。
（副館長）前回委員の方から「博物館のやっている展示が判った頃にはもう終わっている。」というご意見をいただきました。西村公朝展を実施するにあたって、早めの周知が効果的であると考えて、「プレ展示」を実施いたしました。ある程度、効果があったと思います。今後もこういう機会が有効だと思う場合は実施していきたいと思います。
（委　員）講座・出前で存在感を示すことは大事だと思いますが、博物館が研究所や機関になってしまうと思います。箱・場としての博物館の魅力をどう生かしていくか、楽しそうな関連イベントと展示をどう繋げているのかがポイントだと思います。常設展示とどう繋げるのか、出前・特別展とどう繋がっていくか、労力を展示に向くようううまく伸ばしていく、或いは、特別展でやったものを逆に普及的活用していく流れが大事と考えます。連携先のリクエストもあると思いますが、博物館から提案する方が良いと思います。活力を持って広げていくためには、民間助成金を利用することがいいと思います。戦略的に取組んでいただければと希望します。
（議　長）過去の経験からすると、インドアとアウトドアはリンクさせようがないというイメージを持っています。
案件の（１）事業報告（平成２６年度後半～）はこれで終了させていただきます。次の案件
（２）事業計画　平成２７年度（２０１５年度）後期～２８年度（２０１６年度）前期事業計画(案)
を報告をしていただきます。事業のリンク性を意識して、説明いただけたらと思います。

（事務局）以下説明。

Ｐ１７　平成２７年度（２０１５年度）後期～平成２８年度（２０１６年度）前期の事業計画（案）

１【展示事業】

（１）平成２７年度展示事業

（２）平成２８年度展示事業

（３）特別展等展示中期計画（案）

Ｐ１９　２【教育普及事業】

（１）講演会・講座その他

３【連携事業】

（１）学校教育との連携事業　（２）北大坂ミュージアムネットワーク連携事業

４【研修事業など】

（１）博物館実習　（２）大学生学芸員インターンシップ　（３）ＪＩＣＡ

Ｐ２０　５【調査・研究】

（１）資料調査　（２）資料整理

６【資料収集】

（１）資料購入

７【資料管理】

（１）燻蒸庫燻蒸　（２）館内環境維持管理モニター調査

８【資料修復】

（１）経年的な収蔵資料の修理・修復　（２）常設展示の補修

９【刊行物】

（１）博物館だより　（２）博物館官報　（３）中学校教材

１０【その他】

Ｐ２１　平成２７年度（２０１５年度）企画展企画書

Ｐ２２　平成２７年度（２０１５年度）夏季展示

Ｐ２３　平成２７年度（２０１５年度）博物館実習展

Ｐ２４　平成２７年度（２０１５年度）秋季特別展

（議　長）事業計画（平成２７年度後期～２８年度前期事業について）について如何でしょうか。

外部資金の方では、文化庁の補助金がミュージアム・ネットワークで利用されているぐらいで、イベントとのリンクというのも先ほど指摘されました。このことを踏まえてご発言は如何でしょうか。

（委　員）Ｐ１８の２７年度から３１年度までの５ヵ年の中期計画で、夏季展示に「自然と環境」というテーマが５ヵ年間入っています。２７年度「まもる自然・つくる環境」は、内容として小学校４年生が見つけた自然をシートにまとめ、博物館と交流すると説明していただきました。５ヵ年でこのテーマを完成させるということですが、５ヵ年の個々の大きな流れ・テーマが判っておればご説明してください。

（館　長）「自然と環境」は基本的なテーマですが、市民実行委員会が中心の展示で、参加の方々がどういうテーマで、どういう展示やイベントをするのかを決めます。今年は小学校４年生全員に吹田の自然発見シートを配り、学校と連携を取りながら実施しています。夏の展示は理科教育として、子ども達

に自然にふれてもらい、動物や植物等に関心を持って欲しいと思います。冬の場合は「むかしのくらしと学校」で主に社会科の学習。地域の子どもたちにとって社会科と理科を中心にして、吹田の歴史、社会、自然、文化に幼い時からふれる活動に繋がっていくと思っています。大きな脈絡でいくと市民の方々、学校教育関係者の方々と考えながら進めて行きたいと思っています。毎年ということになりますと、その時々の事情によってということになります。

（委　員）非常に効果的な催しだと思います。冬の社会科、夏の理科これが吹田市民、特に子どもたちにとって効果のある事業になることを期待しております。

（議　長）２７年度のタイトルだけを見ていると、自然と環境で「まもる自然・つくる環境 ―こんなのみつけたよー」のタイトル設定で年度をまわしていく方が分かりやすいと思います。

（事務局）２６年度はタイトル「紫金山と釈迦ヶ池」が主題で、「まもる自然・つくる環境」が副題でした。今年度は、実行委員会で展示等を考えていく中で、「まもる自然・つくる環境」を主題としました。実行委員会は毎年変わりますが、「まもる自然・つくる環境」をテーマに今後３年間やっていきます。対象地域を博物館周辺から市域全域に広げて、千里丘陵や北摂山地まで含めるのかどうか未定ですが、だんだんに広げ好評であれば２９年度、３０年度に継承していくと思います。

（議　長）「むかしのくらしと学校」もサブタイトルがあった方がいいと思いますが。

（事務局）３年生の副読本に基づいた学習を一つの目的にしています。３年生は毎年替わります。展示の内容は、毎年ほとんど変わりませんが検討したいと思います。

（議　長)古文書を読む会と展示事業をリンクする等展示に活かせる活動の考えはありますか。

（委　員）P1２の古文書を読む会の活動をご紹介いただいて、具体的にどういった形になるのでしょうか。自主グループの勉強会が何度かありますが、学芸員の４回の指導でかなり読めるような人が育っていたり、ある程度古文書を読んでいけるところまで、成長されているのでしょうか。成長された人を中心に、広げていく考えとか可能性があるのでしょうか。

（事務局)３ヶ月に一回のペースで古文書を読む会をやっています。テキストを出して回答を提出してもらい、添削をするという形で進めています。力の差や同じ箇所でのつまづきがありますので、自主グループ勉強会は、参加者全員を６、７人の４グループに分け、設定した日に来ていただいて、グループ毎に情報交換、お互いに教え合ったりして古文書に興味を持っていただき、よい反応が返ってきていると思います。館報に古文書を読む会の活動報告を書いています。今後、読むのに長けた人、読みたい人に館内の資料を読んでもらうとか、ボランティアをしていただくとか取組めたらと思います。

（委　員）テキストに早田家文書を使っていますが、普通の庄屋家文書でしょうか。展示に地方の古文書にまで繋げていくのは難しいかと思いますが、地道な活動をされて古文書を読み込まれているので、それが展示品に結びつくと感じております。自主グループ勉強会をされている方が、展示に関わっていける方向性が期待できると感じています。博物館実習ですが、社会貢献ないし大学連携との重要な事柄であると思います。今年も実習生による博物館展示があって、学生ならではの発想が出て、実習生はそれが展示になり、観てもらえるという意識で頑張るので、教育的効果も高いと思います。P１４、４〈研修事業等〉で博物館実習とあり、４月２０日大阪学院大学施設見学、P１３、出前講座が５月１８日大阪学院大学に「古文書資料の取り扱い」で学芸員が出られますが、これは大阪学院大学の学生が博物館実習をするその事前準備の一環でしょうか。また、博物館実習の学生の人数と大学の数を教えてください。

（事務局）大学生は、２５名ぐらい。大学の数は、およそ十数校です。大阪学院大学の見学・出前講座

は、学芸員取得コースの一環としての施設見学・出前講座です。博物館実習にも来る予定になっています。関西大学は、展示見学だけ来て、実習は学内で行うと思います。

（委　員）Ｐ２０の８【資料修復】（１）経年的な収蔵資料の修理・修復ですが、昨年はなかったように思いますが、経年的とありますので毎年裏打ち等でしょうか。資料、現物の修復だと思いますが。市史編纂事業で様々な写真を撮られたと思いますが、古文書の写真を撮られたネガフイルム等が劣化してきていると思います。資料調査で撮影したフイルム類の保存をどのようにされていますか。

（事務局）マイクロフイルムは、現在劣化が進んでいるものもあればそれほど痛んでいない物もあります。数年前から順番に DVD 化を行っております。ただマイクロフイルムの複製を作るまでは予算的には無理です。データーだけでも DVD に変換しています。資料の修理・修復ですが、逼迫した物から修復を行っております。文書や絵図は、数も多いのでなかなか手がつけられない状況です。

（委　員）マイクロフイルムの件は、編纂事業の時に写真を撮って、現物で今は写真でしかないという物もあると思います。出来るだけ早いうちに電子データー化していただきたいです。

（議　長）これで（１）（２）の事業報告と事業計画を終わらせていただきたいと思います。

（委　員）さわる展についてです。開始当初からアドバイザーという形で関わりを持っているのですが、お願いでありお伺いです。中牧館長がかねがね常設展示に「さわる」というコンセプトを入れていくんだとお話をされていて、全くその通りで最終的には企画展をやらなくても常設が全てさわる展示化されることが、究極の理想だと思います。そこに至るまで当分は企画展を続けていく意義はあると思います。市民参画の場としても一定の役割を果たしていると思います。ここ数年の「さわる」展を見て思うのですが、担当を二人の学芸員が交代でされていて、オリジナリティを出そうと苦労されています。昨年の協議会の際、副館長が話されましたが、あくまで展示を鑑賞するための手法であってという話なので、「さわる」という手法を活かして、展示を毎年造っていくオリジナリティを加えていくすごく大変なことだと思います。それを二人が交代でやるのは、マンネリ化になる可能性があると思います。他の学芸員の方が「さわる」展を担当することは今後ないのでしょうか。全員で順番にすれば多少負担も減るし、例えば館蔵品でもまだ「さわる展」に活かせる資料もあるでしょうし、調査をする時間も取れます。瓦の展示を常設の方にという学芸員の方の話もありましたが、実験の場としてさわる展示を活用することも考えられます。３年前に館長が就任された時、全ての学芸員の方が常設展で「さわる」ことを活かした資料でギャラリートークをされました。今後もそういう方向で進んでいただきたいと思いました。二人以外の方が、「さわる展」を担当することがあるのか考えをお聞きします。

（事務局）一昨年、去年までは、学芸員全員で「さわる」ことを真剣に考えて、学芸員実習と合わせて行ってきました。学芸員によっては、「さわる」要素を常設化させていくことも取組んでいます。「さわる」ことの意味を考えて、さわっていただいた方がより教育効果が上がる資料については、さわっていただく手法を採り入れ、今後も行っていきます。来年度以降ですが常設化も考えています。

（副館長）２８年度以降の企画展は、館蔵品展となっています。「さわる」という点では、展示全般に有効であればいつでも使っていいと思います。夏季展、実習展、秋・春の特別展に限らず、どこでも登場する可能性はあります。２８年度以降の企画展が、館蔵品展ということになって、「さわって楽しむはくぶつかん in すいた」は消えていますが、その伝統を引き継いで、より有効であれば積極的に活用する考え方に立った展示と考えています。二人の学芸員がさわる展示を交代で担当しているという指摘ですが、結果的にそうなっているだけです。春・秋の展示は、特別展ですのでかなりの負担があります。春・秋の担当者が連続して展示を担当するのは難しいので、担当しない学芸員が企画展、夏季展を担当

することになっています。今後もすべての学芸員が企画展を担当する可能性はあります。
（委　員）２８年度以降は、「さわって楽しむ」に代わって館蔵品展になるのですね。
（副館長）タイトルは何になるかわかりません。今年の６月から始まる「さわって楽しむはくぶつかん in すいた」もタイトルが別でも良いと思います。担当者がみんなと相談して、その展示により適切な関心を持っていただけるタイトルをつければ良いと思います。館蔵品展と書いていますがこの名前の展覧会にはしないと思います。担当者がみんなと相談しながら決めると思います。さわる展の伝統を極力引き継いで行っていくと思います。館蔵品を使用しますので、常設展示に移行する可能性がより高いのでそのような展開を考えています。
（委　員）館の方針を尊重しますが、計画経過から１０年取組んできた「さわる」という要素がなくなることに懸念があります。文字上、書類上消えることに危惧を覚えます。サブでもいいから“さわる展示の・・・”そういう形で書類上「さわる」を残していただきたいです。過渡期で最終的にはなくなれば良いと思いますが、今書類上なくしてしまうことに危惧を抱きます。
（館　長）「さわって楽しむはくぶつかん in すいた」は、今年で１０回になります。今一つの区切りというのが必要ではないかと考えました。次の段階に「さわる」展を持っていくにはどうしたら良いか。目標としては常設展に全面的に活かしていくという方法があるわけです。それに向けての過渡期＝トランジィションの展示として、館蔵品展と表現しているものを位置づけて、館蔵品を中心にこれまでの「さわる」展の伝統を活かしながら、ゆくゆくは全面的に「さわる」展の精神を活かした常設展にしたいと考えています。「さわる」展は一旦打ち切って、新しい名前に「さわる」ということが入った方が良いというご意見はいただきましたので、過渡期として何年かかるかわかりませんが、常設展に常時さわれるような展示構成を守って行きたいと考えています。
（事務局）館蔵品展に「さわる」要素が全て入っているわけではありません。常設化と言っているのは、常設展示室で「さわる」要素も大切ですが、ロビーで「さわる」要素を１００％入れた「さわる」展示コーナー的なものを作る構想を今考えています。今の常設展示室にもさわる要素は可能な範囲で入れます。館蔵品展は「さわる」ことが効果的だと思われるものは、さわっていただくことかと思っています。
（議　長）常設展も全部さわれるコーナーを設けると思っていましたが、全体の展示に対して「さわる」というのでどうホローするのか解説が必要だと思います。そうなると全員さわるコーナーの担当者となるので、担当者を限定する必要もないと思います。この話は中長期計画の話に行っていますので（３）の課題討論の方で、（１）の事業報告を詳しくしましたので、Ｐ２５からＰ３４までの自己点検・評価表は飛ばして、Ｐ３５のグラフ・アンケート及び第二次中長期計画がありますので、説明をお願いします。
（副館長）Ｐ３５～Ｐ３７アンケート結果の報告。
（副館長）Ｐ３８の第２次中長期計画ですが、前回の協議会でご説明しましたので、改めてご説明しません。委員の方からもこれに対するご意見はいただいておりません。５年前の中長期計画が総花的な計画になっているとご指摘がありましたので改善しました。項目は９項目で同じですが、事業計画自体は整理できていると思っています。
（議　長）ページ数を飛ばしたところとタイトルが課題討論となっていますので、多数ご意見ください。グラフは、完全に特徴的なのは企画展です。先ほどの話を引き継いだご意見があればお願いいたします。
（委　員）夏季展示の落としどころが見えてこない。将来的にどっちにもっていくのか見えてこない。特にビジターセンターを長期計画から外しています。そこが無いので自己評価の中でも紫金山公園ビジターセンター計画のところに夏季展との関係に言及が出来なくなっています。市民参加で紫金山をテー

マにして、自然のことを夏季展で行うベースには紫金山公園ビジターセンターがあったはずです。夏季展に向けての市民の思い、活動を博物館として、地域教育としてどういう落とし方をしていくのか、大きな課題だと思います。夏季展のボランティアの育成という問題に止まらない部分かと思います。中長期計画、紫金山をどうしていくのかということを含めて質問します。

（副館長）紫金山公園ビジターセンターは、前回資料の中長期計画に入っていましたが、今日の資料からは省いています。その理由は、本件が財政事情で保留という状況が続いているとご説明してきましたが、現在もその事情は継続されている状況です。断念したわけではありませんが、より先が見えてくる段階で改めて中長期計画に入れることで、今回は削除いたしました。それが出来たら夏季展とのリンクは見えやすいかと思いますが、夏季展はビジターセンター構想が出る前から始まっていました。一つは博物館の内と外の公園とのリンクの話で、紫金山公園全体の利用の中で博物館の利用の仕方を考えて行こうと以前から指摘されており、当館がやらなくてはいけないことです。もう一つは、市民の方の中には、歴史だけではなく自然環境をもっとやってくださいというニーズもあります。ニーズを少しでも採り入れようということで、夏は、夏休み期間を利用して自然環境を取り上げております。紫金山公園ビジターセンターに関係なく夏季展は実施しています。

（委　員）文言は残した方が良いと思います。地域教育部の方からもご意見いただければと思います。

（事務方）紫金山公園ビジターセンターは、副館長が申し上げました通り構想を完全に断念したわけではありません。毎年、市の実施計画には、博物館としてビジターセンターの計画が載っていますが、費用やいつどうこうするというところまでは、載っていないという状況が続います。断念していないというのはそういう意味です。ビジターセンターを博物館だけで建てないといけないのか、どうしても必要なものなのか。市の位置づけとしては、新たに市長の見解を尋ねてはおりませんが、今までは不要ではないがただ至急に建てなければいけないものではないだろう、という位置づけで市は受け止めています。

（副館長）外すべきではないというご意見がございましたら、残しておきたいとは思いますが、状況は今ご説明した通りです。

（議　長）博物館の特徴・看板として活かしていく方向性や館全体をもっと違うイメージで、ビジターセンター、さわる展示を活かして、館のアピールとして別の文言を作り上げていく手もあると思います。特に企画展のグラフを見ると特徴的で、若年層に受け、女性に受け、市外の人に受けている。ただ展示としてイマイチだというデータが出ています。実習展は観覧者も少なくて、先ほど副議長が言われた博物館の教育活動の一環だと位置づけせざるを得ないと思います。マーケットの利用者に対して、それを維持しながらアプローチを広げていくかというところで、看板のかけ方が重要だと思います。

（副館長）展示とイベントの関わりのことがお話に出ましたが、展示とイベントに直接的にどう関わりがあるのかと疑問をもつものがあるのは事実です。そうなった経緯は市民の方々から、「市民でもどこにあるのか博物館の場所を知らない」、「博物館なんてあるの」といった声が寄せられます。この様な人たちは展示内容よりもまず博物館に来てもらわないといけない。展示室を見てもらう、見てもらわないに関係なく博物館に足を運んでもらう。ここに博物館があることを知ってもらうことが大事なんですと言われます。敷居を低くするために展示をある意味度外視して、とりあえず来てもらう為のイベントを打ちましょうよというわけです。こうした来館者の方はなかなか展示室に入っていただけません。ただ、ずっとそれをやっていって良いか、少なくとも段々レベルアップしていって展示室に入っていただいて展示に関心を持っていただくようにしていかないといけない。もう一方では、開館当初からオーソドックスな展示観覧を博物館利用として喜んでおられる人たちもいます。その人たちは展示を見ていただき

ますし、講演会などにも参加していただいています。数年やってきた中でようやく博物館の周知度も増してきた状況です。これからは、少しでも展示により関係あるようなものをしながら、両方利用していただくような層を増やしていかないといけないと思っています。現在はその過渡期ですので一足飛びには進んでいないというのが数字に出ています。そういう中で展示とイベントをどう位置づけていくのか、当館の従来の路線とは違うもの、「さわって」も１０年やってきましたから、そういうものをどう位置づけて、看板として揚げていくのかということだと思います。

（委　員）西村公朝展を今やっていますが、美術院の資料が多いですね。博物館に西村公朝さんの資料があるのにそれを使わないで、生誕１００年の展覧会を修復した実物と比較したりすることは難しいことだと思いますが、長期計画の中でも平成３２年から３６年に西村公朝資料の共同研究が入っています。まだ７年も先に共同研究、もっと西村公朝資料を公にして、早く一つの売りにしたらと思います。今回も外部資料を使って展示をしておりましたので、その辺の説明をお願いします。

（副館長）今回の展示は３回目の展示です。過去２回の展示は西村先生の所蔵品で作品を中心に展示をさせていただきました。今回は前２回と区別をつける意味で修復の方に視点を置いて、展覧会をさせていただいております。その関係で美術院や実際に修理されたお寺の資料が出ております。作品が少ないのはそういった理由です。西村公朝作品の公開は、速やかに一日も早くと思いますが、ただビジターセンターと同じで収蔵庫が増築できていません。これが出来れば速やかに常設展に近いような状況で、公開をはかって行きたいと、その時は修復資料ではなくて作品の方になるかと思います。

（議　長）サブタイトル、タイトル、テーマ、売り文句をじっくり練っていただけると博物館の意思表示が明確になると思います。

（副館長）今後の進め方で事務的なお話ですが、平成２６年度の事業評価を今年度もみなさまからいただきたいのですが、昨年と同じ手はずで項目を当館で決めさせていただいて、コメントを書いていただくということで進めさせて頂いてよろしいでしょうか。

（議　長）そういう進め方で、よろしいでしょうか。よろしくお願いいたします。

（議　長）時間が過ぎてしまったのですが、６の（３）の課題討論というか点検評価の時間が残らないのですが、継続討論ということで、中長期のことなので（２）の事業計画は認めていただいたということで、平成２７年度第１回吹田市立博物館協議会を終了させていただきます。